

平成 30 年度国庫補助事業:中央アジア地域等貿易投資促進事業  
投資環境整備・ビジネス振興事業(4)産業育成ビジネスマッチング事業  
第 1 回 派遣型ビジネスマッチング  
「カザフスタン・デジタル分野協力ビジネスマッチング」  
報告書

一般社団法人 ロシア NIS 貿易会 (ROTOBO)

ロシア NIS 経済研究所

2018 年 6 月

## 1. 中央アジア等産業育成ビジネスマッチング事業の目的と平成 30 年度の事業経緯

本事業は、日本と中央アジア等地域との間の貿易・投資関係の発展と、対象国の産業多角化ならびに市場経済化促進に資することを目的とする「中央アジア地域等貿易投資促進事業」の一環である。原燃料・一次産品生産に特化した単純な産業構造を擁する中央アジア諸国にとって、産業多角化が長期的経済発展を図る上で不可欠の要件であるとの認識に鑑み、これを日本企業とのビジネスマッチングを通じて支援する。日本における事業パートナーの発掘を望む現地の業界団体・企業グループの訪日、あるいは同様に現地における事業パートナーとの出会いを望む日本の企業団体等の現地渡航を、情報提供や然るべき企業の紹介等によってサポートし、双方の交流活発化による貿易・投資促進を図る。特に、原料基盤を生かした加工業、資源開発のサポーティング・インダストリーとなる機械製造業等、対象国に適合した製造業分野の企業と、加工度の向上や環境適応能力の向上につながる高度技術を擁する日本企業をマッチングさせることにより、前者には生産性や品質の向上、後者には新たなビジネスチャンスとなる双方ウィンウィンの関係構築を目指す。

派遣あるいは招聘対象となる企業グループ乃至案件は、例年、中央アジア諸国の在京大使館ならびに ROTOBO の現地パートナー機関からの要請、あるいは同パートナー機関、現地の日本センター等の協力による現地からの公募により選定する。平成 30 年度も、6 月 1 日に公募を開始、7 月 2 日を締め切りとして事業案を募集した。

こうしたなか、6 月 27 日～28 日にカザフスタンの首都アスタナで開催される第 7 回日本カザフスタン経済官民合同協議会 (ROTOBO が日本側事務局) の分科会テーマの 1 つに「IT・デジタル分野における協力の可能性」が選ばれた。カザフスタンでは、2017 年 12 月に国家プログラム『デジタル・カザフスタン』が採択され、デジタル技術を利用することによる中長期的な経済発展の加速化、国民生活の質の改善、またカザフスタン経済を抜本的に新しい発展軌道に移行させるための条件創出を目標に、鉱工業や既存製造業での ICT 技術の導入及び活用、電子商取引の発展、通信インフラの強化、スマートシティの建設、デジタル分野でのスタートアップ支援等、関連分野の発展への取り組みが始まっている。目標達成のため設立された国営企業「ZERDE」が当該の分科会の報告者に選定され、同社より協議会の枠内におけるデジタル関連の日本企業グループとの交流に向けた希望が寄せられた。

IT・デジタル分野における日本とカザフスタン企業の協業の将来性、カザフスタンの経済政策における同分野の位置づけ等に鑑み、同分野における両国企業のビジネスマッチングを図ることは本事業の目的に合致することから、本件を平成 30 年度の第 1 回派遣型ビジネスマッチングの対象とすることを決定した。第 7 回日本カザフスタン経済官民合同協議会に合わせ、IT 系有識者やベンチャー支援実務家などを中心とした代表団を派遣し、本分野におけるカザフスタンのカウンタートとの関係構築の端緒となることを目指す。

## 2. カザフスタン・デジタル分野協カビジネスマッチング実施概要

(1) 派遣者 社内、外部専門家、一般参加者、通訳含め 全7名

(2) 派遣日程

	日付	時刻	日程	宿泊地
1	6/25 (月)	9:00 11:30 13:00 16:45 18:50 20:50	成田発 (OZ107) ソウル着 ソウル発 (OZ6961) アルマトイ着 アルマトイ発 (KC991) アスタナ着	アスタナ
2	6/26 (火)	終日	「デジタル・カザフスタン」に関わる国営企業・政府関係者との面談・視察 ◇ 予定面談先:AO 国営情報コミュニケーションホールディング「ZERDE」、 「国営情報技術 (NIT)」社、他	アスタナ
3	6/27 (水)	終日	第7回日本カザフスタン経済官民合同協議会参加、IT・デジタル分野分科会で報告	アスタナ
4	6/28 (木)	AM  21:30	官民合同協議会代表団とともに現地企業視察  アスタナ発 (KC209)	機中泊
5	6/29 (金)	6:35 9:00 11:20	ソウル着 ソウル発 (OZ102) 成田着	

◇宿泊先： RIXOS PRESIDENT ASTANA

住所： 7 D. Kunayev Street, Astana, 010000, Kazakhstan

TEL： +7 717 224 5050 / FAX: +7 7172 24 27 60

(3) 主要視察先概要

### I. ナザルバエフ大学

- ナザルバエフ大学は、2010年に設置された比較的新しい大学機関。最大の特徴は、従来の大学組織の様に教育科学省の傘下ではなく、大統領直轄の組織である最高委員会に属していることにある。旧態依然の教育要項に縛られることなく、国際競争力のある人材を育成することにフォーカスされているエリート教育型の大学組織である。
- 2018年の時点で、4000人以上の学生が在籍し、2500人強が学部生で、900人近くが大学院プログラムに参加している。また、全ての授業は英語で行われており、基本的には1年間の準備コースに参加して、集中的に英語力をあげてから学部へ進学する。毎年、4000近い応募の中から750人程度がこのコースへ合格し、さらに一定の成績を維持した700人程度が学部への進学を認められる。
- 研究開発に非常に力を入れており準備コースに在籍する時点で、学部の研究プログラムに参加することが可能。起業家育成という面では、ビジネスインキュベーターの活動が始まったばかりで、最近、初めてのインキュベーションコースが修了した模様。

- ナザルバエフ大学リサーチ&イノベーションシステム（通称 NURIS）は、研究開発段階からビジネスへの応用・実践への橋渡し役を担っている組織。インキュベーション活動やアクセラレーションプログラムの開催も行なっている。



ナザルバエフ大学構内

## II. アスタナハブ

- アスタナハブは、EXPO2017 の跡地に拠点をおくスタートアップハブで、その母体は ZERDE という IT・通信の国有ホールディング。「デジタル・カザフスタン」の重点分野にイノベーションエコシステムの形成が盛り込まれているが、アスタナハブは、まさにこれに該当するプロジェクト。2020 年までに、200 社以上に 2 億ドルのスタートアップ投資を掲げている。
- アクセラレーションプログラムを主軸に、カザフ語・ロシア語・英語によるテックニュースサイトの運用、教育・研究開発、スタートアップ企業への共同出資などを主な事業ドメインとしている。
- EXPO2017 跡地にレジデンスエリアや大学を整備し、スタートアップや研究者に住みやすい環境を提供するという構想もあるようだが、これはロシアのスコルコヴォ構想に非常に近い部分がある。



球体の建物がアスタナハブ (EXPO 跡地)



アスタナハブでのプレゼンの様子

### (4) カザフスタンのデジタル産業に関する考察、今後の展望など

- 「デジタル・カザフスタン」構想とは、単純な産業育成政策ではなく、「デジタル経済」に適応できる人材を増加させるための環境形成、土台作りをはじめとする人材の高度化戦略の方向性を指し示す構

想である。大学での将来人材の育成や起業環境の充実のみならず、既存の企業及び官庁人材の再教育やトレーニングも視野においている。

- 懸念として残るのは、人材やスタートアップの母集団である。ロシアには長年欧米のアウトソース開発案件を受けてきた IT 人材の母集団があった。人材やスタートアップの絶対数に不安のあるカザフスタンで、アスタナハブ等の各種構想がどこまで現実的なものなのかは、現時点では判断が難しい。投資プロジェクトに関する目標値も積極性が感じられるが、実現に係る道程については具体的な回答が得られなかった。これからの動きを注視との印象。
- 経済官民合同協議会内で実施されたデジタルセッションでは、スカイライトコンサルティングの平林氏が日本製造業のデジタル化とオープンイノベーションについて、Grooves の山下氏が HR テック事業について報告を行った。カザフスタンでこうした分野の日本企業が報告を行うことは稀であり、かなりの関心を引いていた。特に Grooves 社の事業には興味が高かったようで、報告中もスライド一枚一枚を写真に収める聴衆が多く見られた。



協議会デジタルセッションの様子

以上